

# ふらっとステーション・ドリーム

## 【キーワード】

〔施設種別〕高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 ( )  
〔運営主体〕市区町村 法人 NPO 個人 (補助金)内閣府 国土交通省 厚生労働省 ( )  
〔建物形式〕1棟単体型 複数棟集合型 団地型 (建物状況)新築 増築 改修 一部改修 既存  
〔対象者〕高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 外観写真

ふらっとステーションドリームはドリームハイツという団地内にあるコミュニティカフェである。2005年から福祉3団体が横浜市での市民協働提案事業として運営開始し、2008年からNPO法人化した。交流の場・学びの場・情報収集発信の場・相談の場として、いろいろな世代や立場の人が集い、話をし、つながり合うことを目的として、様々な事業が試みられている。

## ■施設概要

所在地：神奈川県横浜市戸塚区深谷町 1411-5  
施設種別：コミュニティカフェ  
運営主体：NPO 法人ふらっとステーション・ドリーム  
延床面積：約90㎡  
運営開始：2005年12月  
開始時間：月～土曜日 10:00～17:00  
日祝 12:00～17:00

## ■運営概要

ふらっとステーションドリームは横浜ドリームランドの跡地を横浜市が買い取り建設した、ドリームハイツという団地内にあるコミュニティカフェである。ドリームハイツは1972年に分譲が開始された大規模中高層団地であり、入居開始当初は30代から40代の子育て世代が多く入居したが、交通の便が悪い場所のため、地域住民が自発的に、医療・福祉施設など必要なサービスを共助の精神で作り上げてきた。その中で、2005年から「ドリーム地域給食の会」「NPO法人ふれあいドリーム」「NPO法人いこいの家夢みん」の福祉3団体が横浜市での市民協働提案事業として運営開始、2008年からNPO法人化をし、地域住民の交流の場の提供を中心に、様々な地域づくり事業を行っている。

運営費は会員費と寄付金、助成金、また事業収益から賄っている。会員はの法人の運営及び事業活動に積極



図1. 立地周辺 (googlemap から引用)

集会所前バス停から徒歩3分、俣野公園・横浜葉大前バス停から徒歩6分のドリームハイツ団地内、郵便局の隣に位置している。



図2. ドリームハイツエリアマップ

横浜ドリームランドの跡地を横浜市が買い取り建設した、ドリームハイツ。環状4号線沿いに位置する。



写真2. 情報相談コーナー

医療福祉に関する情報提供や、看護師による血圧測定や健康相談などの区役所に行かなくても必要な情報が得られる情報相談コーナー。

図3. ふらっと通信

ふらっと通信は事業で行われたイベントや講座、その他のお知らせについて、ネット上から確認できるようになっている。

的に参画できる正会員、の法人の事業活動に参加できる準会員、法人を資金面で支援をする賛助会員から成り、2020年現在は正会員13名、準会員29名、賛助会員70名が登録している。助成金は横浜市通所型支援補助金、共同募金助成金、笹川・区社協助成金、県自治会大正地区社協の4つを受け取っている。スタッフはチーフをはじめ30数名おり、時給は250円、4時間制のシフトを組み、各人負担のかからない範囲で好きな曜日を選択している。

### ■活動内容

ふらっとステーション・ドリームでは交流の場・学びの場・情報収集発信の場・相談の場として、いろいろな世代や立場の人が集い、話をし、つながり合うことを目的として、様々な事業が試みられている。

地域づくりの企画・運営及び地域住民の交流に関する事業としてサロン事業が行われている。月曜～土曜日の10時～17時、日曜・祝日は12時から17時まで運営されており、月平均1380人が訪れている。約30席の客席は老若男女で賑やかである。予約が必要な集会所とは違い、談笑ををして仲良くなる場所として運営されている。月曜～土曜日は食事や飲み物の提供もされている。またサロン事業と隣接して、マイショップ事業も運営されており、店内には地域住民が撮影した写真などが飾られるギャラリーを開放しつつ、地域住民が創作した小物・アクセサリ等の展示・販売を行っている。

次に文化交流や学びの事業としてミニコンサート、琴尺八コンサート、ジャズ開催などのイベントの開催やふらっとカルチャスクールとして英会話の授業が行われるなど、地域住民のニーズに合わせて様々なイベントや講座が行われている。

情報・相談に関する事業として、行っている事業のHP掲載と更新や医療福祉に関する情報提供や、看護師による血圧測定や健康相談などの区役所に行かなくても必要な情報が得られる情報相談コーナーが設置されている。

最後に地域運営支援事業として高齢者や子ども向けの福祉などの地域課題を住民が解決することを目指し、2007年に自治会、市民活動団体など7団体が主体となって結成された「ドリームハイツ地域運営協議会の事務局が設置されており、心の病居場所づくりの「ぽぽら」が

などの協議会の活動の拠点となっている。

### ■建築について

ふらっとステーション・ドリームはドリームハイツ内の薬屋の空き店舗を改装された建物である。出入口は全体がガラス張りとなっており、外から内部の様子を伺えるようになっており、誰でも気軽によれるカフェとなっている。広さは約90㎡で、カフェ部分とキッチンスペースは併設されており、約30席の客席ある。また、建物内外がバリアフリーとなっている。これらはふらっとステーション・ドリーの「建物内外がバリアフリーでふらっとであるということ」、「誰でも「ふらっと」入れる場所であるということ」、「人間関係が「ふらっと」であるということ」という3つの目的から来るものである。



写真3. カフェスペース

ガラス張りの出口から様子をうかがえるカフェスペース。約30席の客席があり、利用者が談話している。



写真4. キッチンスペース

キッチンスペースはカフェスペースに隣接されており、月曜～土曜日はこちらから食事や飲み物が提供される。

### 参考文献

- 1) 横浜市指定特定非営利法人 ふらっとステーションドリーム (<http://furatto-std.sakura.ne.jp/index.shtml>)
- 2) 文部科学省 ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/npo/npo-vol3/1316776.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/npo/npo-vol3/1316776.htm))

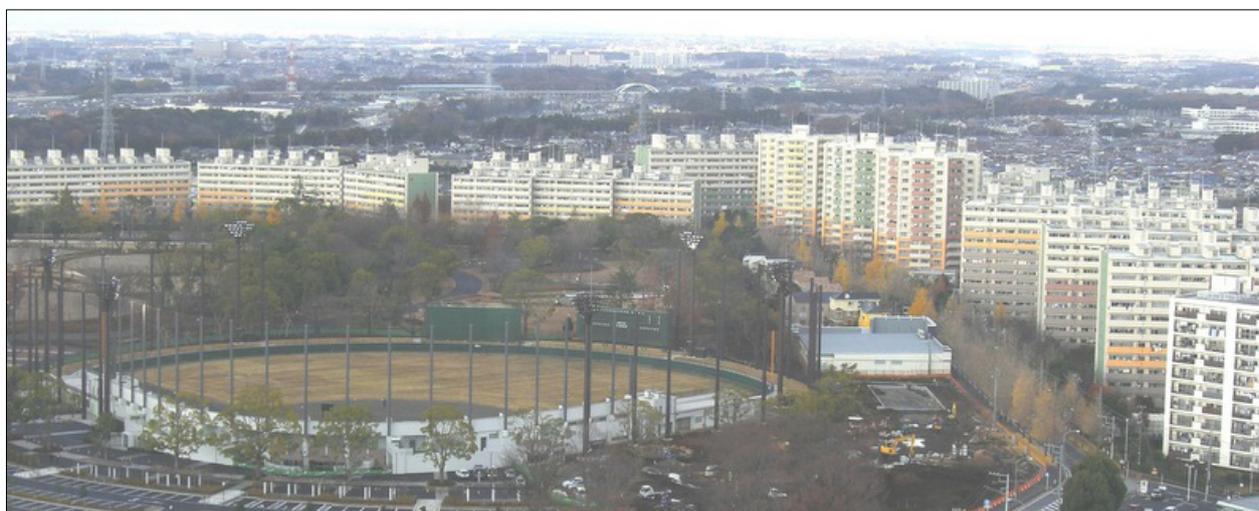


写真4. ドリームハイツの航空写真